

尚綱学入門

はじめに

尚綱学の目的

尚綱学院大学で「尚綱学」という授業が始まったのは 2011 (H23)年からである。尚綱のキリスト教学校としての長い歴史と伝統を学生たちが学び、母校に対する愛着と誇りをもって卒業し、人生を歩んでいってほしいという願いから始まった。

自分の大学について学ぶことを、正規の科目として設置している大学は、他にあまり例がない。尚綱の学生に限らず教職員にとっても、この「尚綱学」という科目の性質を理解して学び、尚綱への親しみをもっていただければと思う。

さて、「尚綱学」の目的は以下のとおりである。

- 1) 日本近代史を舞台に「尚綱女学会」から「尚綱学院」に連なる先人たちの足跡を辿り、建学の精神がどのように受け継がれてきたかについて学ぶ。
- 2) 本学の歴史を学ぶ過程で、同時代の社会、政治、文化等に関する知識を改めて獲得する。
- 3) 総合人間科学部が目指す「人間の総合理解」に向け、様々な学問的観点から「人間」に対するアプローチを試みる。
- 4) これらの学習を通して、尚綱学院大学についての理解を深め、愛着を抱き、本学学生であることに誇りを持つこと、そして「自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる」という建学の精神の実現に踏み出す第一歩を切る。

「尚綱」から「尚綱」へ
「尚綱女学会」開校以来、1943(S18)年に「仙台尚綱女学校」が「仙台尚綱高等女学校」に改められるまで、正式校名表記には「尚綱」が用いられていた。

本資料では、これ以降、便宜上統一して、登場する校名は「尚綱」と表記する。

尚綱学の概要

尚綱学の概要については以下のとおりである。

前半は、1892(M25)年の尚綱女学会の創立時の背景、創立者の意図、校名の由来、特に初代校長アニー S. ブゼルの理念と生き方、そして大正・昭和を経て現在に至るまでの尚綱学院の歴史と今についての講義が中心である。また、学院の象徴であるエラ・オー・パトリック・ホームの見学や、同窓生など特別講師を迎えての講義も行われる。

後半では「人間とはどのような存在か」、そして「人間という存在を探る科学的視点にはどのようなものがあるか」について、各学科から教員が一人ずつ出て、オムニバス形式での講義となる。総合人間科学部に属する他学科の学問分野や研究方法について学ぶことを通して、自分の所属学科とその専門分野についての全体的理解を促したい。

1. 尚綱学院について

1.1 建学の精神と校名および校章について

尚綱学院は、1892(M25)年、米国の外国伝道協会 WBFM-SW からキリスト教教育のために派遣された女性宣教師たちにより、「尚綱女学会」として創設された。後継者たちは、創設した宣教師たちの「キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる」という思いを尚綱学院の建学の精神として、これまで守り継承して来た。

「尚綱」の校名は、中国の古典『中庸』の一節である「衣錦尚綱」(錦を衣て綱を尚う)から採られた。それは金や銀、色鮮やかな糸で織られた美しい着物を着ていたとしても、それを見せて驕るのではなく、尚(くわ)えて質素な打掛(綱)をまとい、錦のきらびやかさを慎ましく被う、という君子の道を説いた言葉である。

1892年11月に着任した女性宣教師 A.S.ブゼルは、この校名の由来を聞き、その謙虚な精神はキリスト教においても重要な精神の一つであるとし、新約聖書ペトロの手紙 I 3:3~4 を示して「この意味を以て学校の精神とすべきである」と主張した。

ὦν ἔστω οὐχ ὁ ἔξωθεν ἐμπλοκῆς
τριχῶν καὶ περιθέσεως χρυσίων
ἢ ἐνδύσεως ἱματίων κόσμος, ἀλλ' ὁ
κρυπτὸς τῆς καρδίας ἄνθρωπος ἐν
τῷ ἀφθάρτῳ τοῦ πραέως καὶ
ἡσυχίου πνεύματος ὃ ἐστὶν
ἐνώπιον τοῦ θεοῦ πολυτελής.

(UBS Greek New Testament 5th)

あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであってはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです。
(新共同訳)

したがって、建学以来ブゼルの示したこの聖句を根拠として、「尚綱」という校名が意味する「外面ではなく内面を豊かにする」人間を目指すことを、尚綱学院はこれまでスクールモットーとして大切にしてきた。

校章は創立十周年にあたる 1902(M35)年に制定された。モチーフになったのは梅の花である。厳しい寒さを凌いで開花し、やがて芳しい香りを放つ梅の花は、女性の美徳の象徴であるとともに、中国の故事にも記されているように勉学の精神の象徴ともされていた。

この梅の花に建学の精神との共通性を見出し、梅の花の形にも似た「尚」の字の中に「綱」の字をあしらってデザインしたものが、現在まで受け継がれている校章である。

第二次世界大戦後、短期大学の設置と同時に、左肩に「大学」の字を配した校章が加わり、現在に至っている。



好文木

梅はまたの名を「好文木」という。中国の『東見記』には「梅云好文木、故事在晉起居注：晉武好文則梅開、廢學則梅不開」とある。武

尚綱学入門

帝にまつわる故事からそう云われている。「文を好めば、則ち梅開く」とは、学問に親しめば梅の花が開くという意味である。いつも梅の花が咲き誇る、そんな場所でありたいという願いがこの校章に込められている。

もう一つのエピソード・校名について

尚綱の設立時には、日本人の協力者が数名いた。そのうちの一人久保寺豊大郎は、和漢数の教授を受け持ちながら校務にも従事していた。校名を決める時、彼は『論語』にある「克己復禮」を提案した。しかし、ミードは自分が肥満であったので「復禮（フクレ）」は語呂が面白くないというので却下した。再考の結果、『中庸』から「衣錦尚綱」の尚綱が提案され決定したようである。

当時、キリスト教教育を行なうことは許されていたが、校名にキリスト教関係の名前を付けることは許されていなかった。したがって、地名や建学の精神・思想を表す漢文等から選ぶ他なかったのである。

熊本市にある尚綱大学（学校法人尚綱学園）は1888(M21)年「済々黌附属女学校」として開校。1891(M24)年10月「尚綱女学校」と改称されたが、両者間に特別の関係はない。

1.2 新しいスローガンとシンボルマーク

戦後の1948(S23)年に法人名を「尚綱女学院」に改称した尚綱であったが、その後、五十五年間慣れ親しんできたその名称も、2003(H15)年に共学の四年制大学開学を期に、「尚綱学院」と改称された。

そして、2007(H19)年、尚綱学院は「育む、羽ばたく、知と心」というフレーズを学院の新しいスローガンとして掲げ、シンボルマークと各校のロゴタイプをすべて一新した。

新しいシンボルマークは、未来へ羽ばたく SHOKEI を表現している。

シンボルマークのモチーフは、SHOKEI の“S”である。翼をイメージした、しなやかさと力強さとをあわせ持つそのアウトラインは、進化し続ける SHOKEI の伸びやかな「羽ばたき」を優美に表現している。また、同時に羽ばたきが象徴するのは、学校法人尚綱学院の発展であり、総合学院の推進力。そして学生・子どもたち一人ひとりの成長、飛躍、未来への「希望」である。



新しいスローガンに込められた意味

育む キリスト教を土台とした心の教育による人間形成。他者との共生の在り方を探る。

羽ばたく 個々に養った知識や技術を自信に、次なる夢や社会・世界へ飛躍するための力を養成する。

知と心 学びと人間性、双方をバランス良く培う教育環境の更なる充実。知力理性のマインド、精神・真意のスピリット、愛情・感情・興味・気持ちのハートを集約したキーフレーズでもある。